

- 01.ドクトルと遊歩道
- 02.水彩叙景
- 03.追憶旅行記
- 04.Nameless/Nonsense
- 05.サバの味噌煮ロック
- 06.つとめて
- 07.スーザニア・ファミリー (a.水上スキーの愉しみ/b.雨女の生涯/c.アフター・イメージ/d.フローリアン・フロッケ讃歌/e.無題# 2)

作詞・作曲・編曲：Humihiko “Jushoku” Okada

演奏：Electric Susan

水彩叙景

水彩絵の具をノートブックにたらしながら、鐘の音を聞いていたら季節は終わった。だれか？どこに？コップの底に、君の面影が——。いわし雲の空は、こわれたぼくたちを拾い集めて、またぞろこわして、でたらめに並べて遊んでいたのさ！ふるさとの記憶の切れっばし。学校帰りに言いそびれた冗談が、いつまで経ってもぼくの頭を離れない。とんだり、跳ねたり、へんなカッコに変わったりしながら、ぼくらはどうどうめぐり。学校帰りに果たせなかった約束を抱えて、ぼくは台風みたいに走ってく。話したいことは山のように、聞きたいはなしもやっぱり山のように。学校帰りに言いそびれた冗談を抱えて、ぼくはまだこの季節を終わらせない！とんだり、跳ねたり、へんなカッコに変わったり、話したいことは山のように、聞きたい話もやっぱり山のように——。

追憶旅行記

わたしが生まれる前のこと。わたしはいつか船に乗り、風をたよりに旅をして、風のたよりを待っていた。あなたが生まれるその時を、息を潜めて待っていた。マストの先に太陽がひっかかっていました。あなたが生まれる前のこと。わたしはあなたと駱駝の上。砂漠に井戸を掘りながら、見えない水を分かち合った。わたしが生まれるその時に、あなたはリュートをつまびいて、乾いた地べたに歌声がおちてゆきました。わたしが生まれるその時に、空はおかしな顔つきで、あなたが生まれるその時も、空は笑っていました。わたしが生まれる前のこと、わたしは静かに待っていた。あなたが生まれる前のこと、わたしは静かに待っていた。わたしが生まれるその時に、どこからか歌う声。あなたが生まれるその時に、それはわたしの声。それはあなたの歌。

Nameless/Nonsense

そして、また訪れる。一斤の葡萄パンを持って、必ずやあなたのところに姿を見せるだろう。重たい辞書を片手に図書館を出た時、空から雨粒が、晴れ渡った空から——。一斤の葡萄パン、静かに燃える。燃えつきた雲の向こうに虹が出る。Nameless. Nonsense. こともたちが踊る——忘れ去られた未来に。

サバの味噌煮ロック

SA-VA,SA-VA,SA-VA,SA-VA,さばの味噌煮をしなびた飯屋で食べていたら、だれもおはしをくるくる回して踊りだしたのさ！昼休みを揺るがすへんてこな奇跡。この町なんだか見慣れぬままに、こんなに月日が流れてゆくよ。しなびた飯屋に通う日々。常連客達つどって、まっぴるまっからサタデーナイト気分！し・な・び・た飯屋のぼくらは、手をとりとびはねサバサバ歌うよ。テーブルマナーを忘れる程度に大騒ぎ！れっつ・ご一、世界は井の中さ！SA-VA,SA-VA,SA-VA,SA-VA,さばの味噌煮をしなびた飯屋で食べていたら、だれもが手を取りとびはね素面で踊りだしたのさ！れっつ・ご一、世界は井の中さ！

つとめて

さびしい夜明けにお茶を飲みましょう。今日も雨が降る。ずっと雨が降る。有明の月、静かに。テントの隅で眠るピエロみたいに、顔に皺きざみ、夢も見ないで、約束もなしにまどろむ。行き場ないまま目覚める。さびしい夜明けにお茶を飲みましょう。待ちくたびれた朝が来るから。有明の月、雨に煙って、雨に煙って、静かに——。

無題#2

きみのかけらがこぼれおちてくるはがれおちてくるからだのないせかいにおともたてずに
なにもかもがここにはなくてなにもかもがおわらないままにぼくのかげらがまちにふきだ
まるふりそそいでいることばのないゆうべにうたもうたわずなにもかもがはじまらないま
まなにもかもがなにかのふりをしてさよならをいったのかどうかきみのかけらがこぼれお
ちてくるまいおりてきてぼくのかげらとまざりあってゆくなにもかもがどうでもよくてな
にもかもがもうわからないさよならをいったのかどうかおやすみとつげたのかどうか